

# 円81円台後半の高値圏

## FOMC議事録、遅れることなく緩和

12日の海外・外為市場のドル・円相場は、81円台後半の円高値圏でもみ合い。円は一時81円65銭まで上昇したが、10日の海外市場で付けた81円37銭には届かず。FRBによる追加緩和が実施されるとの観測から、ドル売り地合いが続いており、ドルはジリ安で推移。ユーロ・ドルは、1・37ドル台までユーロが調整したものの、同水準でユーロの底堅さを確認すると、再びドル売り・ユーロ買いが進み、1・39ドル台前半までユーロが急伸した。一方、ドル・円では、本邦当局が急激な変動に際しては断固たる措置を取るとの姿勢を崩さず、円売り介入の警戒感が強く、円の上値を試す動きは限られた。また、ユーロの買い戻しを反映し、ユーロ・円は112円台後半から113円台後半にユーロが値を戻している。公表されたFOMC議事録は、追加緩和として国債買い入れの拡大とインフレ期待誘導が焦点とされ、経済情勢次第では遅れることなく追加緩和に踏み切ることが適切との認識が持たれ、ドル売りで反応した。(U)

# Finance Facsimile News

## Global Market



2010年(平成22年)第1234号  
(無断コピーおよび転送は固くお断りします)

10月13日(水)

### NYダウは小幅続伸

12日のニューヨーク株式相場は、米FRBが同日公表した9月21日開催のFOMC議事録要旨で、追加金融緩和策を検討していたことが明らかになったことから、引けにかけてはプラス圏に回復し、ダウ工業株30種平均は前日比10・06ドル高の1万1020・40ドルで終わった。ダウの上伸は3営業日連続。また、ナスダック総合指数は15・59ポイント高の2417・92で終了した。ナスダックの上伸は4営業日連続。ニューヨーク証券取引所の出来高は前日比9616万株増の9億2217万株(暫定値)。

■為替相場			
日本時間	午前6時30分現在(前日同時刻対比)		
ドル・円	81.82	~	84 円 (-0.28)
EURO・ドル	1.3920	~	26 ドル (+0.0048)
EURO・円	113.89	~	94 円 (± 0)

■12日のNY、LD商品指数			
ロイター指数	2817.30		+21.27
Dow Jones-UBS Commodity	146.0337		+0.9275
COMEX金 ⑫	1346.7		-7.7
LD金	1347.25		-0.45
WTI ⑪	81.67		-0.54

■12日の海外国債相場				
	表面利率	償還日	終値	前日比
◎アメリカ				
TB 3カ月			0.12	+0.01
5年債 NOTE	1.250%	09/30/15	1.14	+0.03
10年債 NOTE	2.625%	08/15/20	2.43	+0.04
30年債 BOND	3.875%	08/15/40	3.82	+0.07
◎ドイツ				
3年債 Schatz	4.00%	10/11/13	0.91	-0.03
5年債 OBL	1.75%	10/09/15	1.39	-0.04
10年債 Bund	2.25%	09/04/20	2.24	-0.03
20年債 Bund	4.750%	07/04/28	2.81	-0.03
◎イギリス				
5年債 Gilt	2.75%	01/22/15	1.53	-0.03
10年債 Gilt	4.75%	03/07/20	2.85	-0.03
20年債 Gilt	4.75%	12/07/30	3.79	-0.01

■12日の主要国の株式指数				
アメリカ	NYダウ工業株30種	11020.40	△	10.06
アメリカ	S&P 500種	1169.77	△	4.45
アメリカ	ナスダック総合指数	2417.92	△	15.59
カナダ	トロント300種	12575.64	△	40.05
メキシコ	ホルサ指数	34437.39	▼	28.02
ブラジル	ボヘスバ指数	70946.49	△	137.70
ダウ	ユーロ50種株価指数	2775.75	▼	13.97
イギリス	FT 100指数	5661.59	▼	10.81
フランス	CAC 40指数	3748.86	▼	19.63
ドイツ	DAX 指数	6304.57	▼	4.94
スペイン	IBEX 35指数	10648.20	▼	52.6
イタリア	S&P/MIB指数	20750.22	▼	87.49
オランダ	アムステルダム AEX指数	335.09	▼	1.95
スウェーデン	ストックホルムOMX指数	1089.89	▼	2.45
スイス	SMI指数	6375.26	▼	10.92
日本	TOPIX	824.60	▼	14.84
日本	日経平均株価	9388.64	▼	200.24

### 米長期金利が上昇

12日のニューヨーク金融・債券市場は、3年債入札に対する需要がさえなかったことを受けて若干の売り圧力が掛かり、金利は上昇した。10年米国債利回りは前日比0・03%上昇の2・43%、30年債利回りは0・07%上昇の3・82%でそれぞれ取引を終えた。2年債利回りは0・02%上昇の0・37%、3カ月TB利回りは変わらずの0・12%だった。

### NY金が反落

12日のニューヨーク商品取引所(COMEX)の金先物相場は、調整局面となる中、対ユーロでのドル高を受けて売りが優勢となり、反落して終了した。中心限月12月限の終値は、前日比7・70ドル安の1346・70ドル。

### 景気次第で遅滞なく追加緩和

#### インフレ予想押し上げも検討し米FRB

米連邦準備制度理事会(FRB)が12日発表した9月21日の公開市場委員会(FOMC)議事録要旨によると、経済情勢次第では「遅れることなく追加金融緩和に踏み切ることが適切だ」と委員らが認識していたことが明らかになった。追加策として米国債買い入れのほか、インフレ予想を上向き誘導する新たな方策も協議された。追加緩和への期待が市場で一段と高まりそうだ。FOMC参加者は、米経済が再び景気後退に陥る公算は小さいながらも、生産と雇用の増加ペースは緩慢にとどまっていると認識。多くは「成長の伸びや失業率低下がしばらく遅れる可能性」を懸念しており、失業率を低下させるのに成長が不十分であったり、インフレが適切な水準を下回り続けた場合は追加緩和に踏み切ることが適切だ、と指摘した。

### 「出口」延期は不要

#### 独連銀総裁、ユーロ圏各国債買い取りも停止を

ドイツ連邦銀行のウエーバー総裁(ECB理事会メンバー)は12日、ニューヨークで行った講演で、非常時の金融緩和策を通常に戻す「出口戦略」を延期するのは不要との見解を示した。事前配布された講演テキストによると、同総裁は出口戦略があまりに遅すぎるほうが、早すぎるよりもリスクが大きいと強調。金融市場が一部でなおも弱いだが、正常化の兆しが続いていることを踏まえれば、「あまりに長く出口を延期しない必要がある」と明言した。同総裁はさらに、ECBがギリシャ債務危機の深刻化を受けて5月より行っているユーロ圏各国債の買い取りについて「も今、「永久に、段階的に停止していくべきだ」と述べた。

# 預金準備率を0.5%引き上げ

大手銀対象、期間も限定

## 中国

★12日の中国メディアの報道によると、中国人民銀行（中央銀行）はこのほど、国内の一部大手銀行を対象に、預金準備率（預金総額のうち人民銀行に預け入れる比率）を0.5%引き上げた。余剰資金を吸収し、貸し出しの伸びを抑制するため。引き上げ後の準備率は17.5%になる。引き上げは今年5月以来。ただ、今回は中国工商银行や中国銀行など6行に限り、期間も2カ月に限定した。中国では夏場の天候不順などを背景に、食品価格が大きく上昇。9月の消費者物価指数の前年同月比伸び率は、3カ月連続で政府目標の3%を上回ったとみられている。人民元相場の上昇期待から、一時は弱まっていた投機資金の流入傾向が再び強まっており、カネ余りを引き起こし、物価を押し上げるとの懸念も浮上している。

★一方で、主要輸先への先進国では、景気の先行きに不透明感が強まっている。国内では不動産バブル対策を強化。生産能力過剰を解消するため、投資抑制や旧式設備の解消を進めており、中国経済を引っ張る「輸出と投資」の2本柱に不安を抱えた状態。このため、期間と対象を限定し、景気動向にも配慮しつつ、物価上昇の抑制に乗り出したものとみられる。

## 第2四半期の経常黒字が35%増

★中国国家外貨管理局が12日発表した2010年第2四半期の国際収支統計（改定値）によると、経常黒字は72.9億ドルと、前年同期比35%増加した。うちモノの貿易収支は59.5億ドルの黒字、サービスは45億ドルの赤字。所得収支は80億ドル、経常移転収支は99億ドルの黒字だった。資本・金融収支の黒字は25.8億ドルと、同68%減少した。うち直接投資は21.5億ドル、その他投資は12.4億ドルの純流入。証券投資は95億ドルの純流出だった。国際準備資産は82.1億ドル増加した。

## 中銀総裁「不均衡は正には忍耐必要」

★中国人民銀行（中央銀行）の周小川総裁はこのほど、ナショナル・プレスクラブで行われた各国中銀総裁による討論会で、世界の不均衡は正を短期間で行えば問題をより大きくする恐れがあるとして、忍耐を呼び掛けた。周総裁は「ともすると人々はそうした忍耐を持ち合わせておらず、不均衡は正で素早い変化を求めがちだが、それでは行き過ぎを招きかねない」と指摘。「調整には二つの手段がある。一つは為替相場を通じて行い、もう一つは構造改革によるもので、必然的に長い期間を要する」と述べた。その上で、強力で持続可能かつバランスの取れた成長を目指す20カ国・地域（G20）の目標を中国は支持すると強調した。上半期（1～6月）では、経常収支の黒字幅は126.5億ドルと、前年同期比6%減少した。うちモノの貿易収支は89.7億ドルの黒字、サービスは11.7億ドルの赤字。一方、資本・金融収支の黒字幅は90.0億ドルと、同48%増加した。

# ベトナム、金価格上昇が通貨下押し

## ASEAN

★ベトナムの銀行筋が11日語ったところによると、ベトナム国内の金価格は国際価格の上昇に伴い先週、過去最高値に上昇。同国通貨ドンの下押し圧力となっており、ドン相場はさらに下落するとの見方が強まっている。ベトナム国内の金価格は、国際価格に1テールあたり50万～100万ドン

無断コピーおよび転送は固くお断りしております

（25・7ドル～51・4ドル）のプレミアムを乗せた価格で取引されている。1テールとは、およそ1・21トロイオンス。ベトナム中央銀行は7日、市場安定化のため、国内の企業9社に対し合計約3トンの金の輸入を許可した。トレーダーらは、金価格の上昇、世界とベトナム国内での取引価格の開き、政府の金輸入の厳しい規制によって、金の密輸業者や投機筋がドル買いを活発化させていると指摘。ドン相場の下落につながっていると説明した。

# インドネシア、建設向け貸出1.5%減

★12日付のビジネス・インドネシアによると、同紙が中央銀行からこのほど入手したデータで、8月時点の国内銀行における建設部門向け貸出残高が63兆3000億ルピア（約5850億円）となり、年初来で1.5%減少したことが明らかにされた。英大手銀スタンダード・チャータード銀行エコノミストのファウジ・イフサン氏は、貸出残高減少は国内インフラ事業の実施が遅れているためとし、銀行貸し出しは消費部門において拡大がより顕著であると付言した。同データによると8月時点での消費部門への銀行貸出残高は501兆2000億円で年初来で14.7%増加している。

## フィリピン鉄道事業に中国の技術援助

★フィリピン国内のインフラ整備などで官民が共同出資するプロジェクト（PPP）において、中国から技術面などで援助があることがわかった。現地紙ビジネス・ミラーが伝えた。同プロジェクトは、鉄道事業や再生可能エネルギーの開発などを官民共同で進めていくもの。中国のジェンチャオ大使は、「中国の経験から言うと、鉄道の発達は国の勢力を挙げるのに必要不可欠。中国は世界でも発達した鉄道網を持っており、フィリピンの交通整備にも貢献できるだろう」と話している。

## 日本とインドネシアが初の閣僚級経済協議

★日本の外務省は12日、インドネシアと初めての包括的な閣僚級経済協議を14日に開催すると発表した。日・インドネシア経済連携協定（EPA）について議論し、看護師や介護福祉士の受け入れについても意見交換される見通し。日本側からは前原外相、大畠経済産業相などが、インドネシア側からはラジヤサ経済担当調整大臣、パンゲストウ商業大臣などが出席する。

## 12日の金利スワップ

（午後3時30分現在、単位：%）

	円・円 (1Y)	米ドル・米ドル (1Y)
DEC/DEC	0.295 ~ 0.265	0.56 ~ 0.45
MAR/MAR	0.293 ~ 0.263	0.68 ~ 0.65
JUN/JUN	0.295 ~ 0.265	0.41 ~ 0.38
SEP/SEP	0.30 ~ 0.27	0.48 ~ 0.45

  

円・円スワップレート気配	米\$・米\$スワップレート気配
(1金融機関)	(複数金融機関)
2年物 0.4263 ~ 0.3263	0.389 ~ 0.369
3年物 0.4313 ~ 0.3313	0.393 ~ 0.373
4年物 0.4525 ~ 0.3525	0.413 ~ 0.393
5年物 0.495 ~ 0.395	0.456 ~ 0.436
7年物 0.6438 ~ 0.5438	0.604 ~ 0.584
10年物 0.980 ~ 0.880	0.941 ~ 0.921

© 株式会社 金融ファクシミリ新聞社 2010  
 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町9-9  
 Tel 03(3639)8777 Fax03(3639)5071  
 【ホームページアドレス】 <http://www.fng-net.co.jp>  
 【お問い合わせE-mail】 [hensyu1@fng-net.co.jp](mailto:hensyu1@fng-net.co.jp)

無断コピーおよび転送は固くお断りしております

## 上海総合、5カ月ぶり高値

# 株式

★12日のアジア株式市場は、最近の上昇の反動による下落や利食い売りが重なり、総じて軟調に推移したが、下げ渋る動きもみせた。このなか、上海総合指数は4日続伸。前場は、中国当局が複数の銀行に対して、預金準備率を引き上げたとの観測が強まり、金融株を中心に地合いを悪化させた。後場に入ると前場から上昇していた素材株に買いが集まり、過剰流動性による投資資金が資源に流れるとの期待感から素材株が全般的に上昇すると、地合いを改善させ、続伸につながった。指数の高値は2843・42で5月5日の2857・29以来、約5カ月ぶり。

★香港市場のハンセン指数は7日ぶり反落。中国における預金準備率の引き上げ観測を受け、中国本土系の銀行株が売られ、指数を押し下げた。ただ、上海総合指数が続伸に転じたことで、売られていた銀行株などで下値を拾う動きも入り、指数は下げ渋った。

### ジャカルタ総合指数は続伸

★ジャカルタ総合指数は続伸。素材や公益株が売られたものの、ヘルスケアや消費財が買われ、指数は底堅く推移。ただ、上値は3586・40にとどまり、6日に付けた史上最高値の3630・39には届かず。フィリピン総合指数は3日続落。設備投資や大規模な開発への期待で上昇していた不動産株が売られた。また、消費者サービスなどでも売りがみられた。シンガポールST指数、マレーシアKLCI指数は反落。一方的な売りだけではなく、買いも入り、調整局面といった印象が強い。

### ムンバイは反落

★ムンバイSENSEX指数は反落。素材や石油・ガス、金融株などが幅広い銘柄が売られた。下落率は一時1・14%に達した。

### 台湾と韓国は1%超の下落

★台湾市場の加権指数、韓国総合指数は、いずれも4日続落。対ドルで台湾ドル、韓国ウォンの上昇傾向が続いており、輸出企業の業績悪化を嫌気し売りにつながった。(U)

### SETは小反落

★12日のバンコク株式市場は下げ幅を縮小して終了。政府がバーツ高対策を導入したのを受け、投資家が市場に戻った。SET指数は前日終値比0・77ポイント(0・08%)安の977・08で取引を終えた。(この項時事M)

## ◆アジア各国の株・為替・長期債利回り◆

### 株価

国・地域	10/12 終値	前日比 変化率%	年初来 変化率%
中国	2841.41	+1.23	-13.30
香港	23121.70	-0.37	+5.71
台湾	8090.22	-1.06	-1.20
韓国	1868.04	-1.16	+11.01
ベトナム	454.32	-1.09	-8.18
タイ	977.08	-0.08	+33.02
マレーシア	1486.57	-0.06	+16.80
シンガポール	3149.36	-0.44	+8.69
インドネシア	3547.25	-0.04	+39.97
フィリピン	4166.52	-1.24	+36.49
インド	20203.30	-0.67	+15.68

### 為替

国・地域	10/12 終値	前日比 変化率%	年初来 変化率%
中国	6.6734	+0.08	-2.25
香港	7.7583	+0.00	+0.05
台湾	30.958	+0.50	-3.21
韓国	1131.45	+1.31	-2.80
ベトナム	19490.0	+0.03	+5.47
タイ	29.97	-0.30	-10.19
マレーシア	3.1095	+0.27	-9.25
シンガポール	1.3054	-0.14	-7.08
インドネシア	8938.0	+0.11	-4.96
フィリピン	43.735	+0.38	-5.25
インド	44.6675	+0.58	-3.99

### 長期国債利回り

国・地域	10/12 終値	前日比
中国	3.380	-0.034
香港	2.031	-0.003
台湾	1.180	-0.001
韓国	4.039	-0.020
タイ	3.139	-0.030
マレーシア	3.680	+0.020
シンガポール	1.941	-0.018
インドネシア	7.302	-0.632
インド	8.014	+0.014

## SGDは小幅高に

# 為替

★10月12日の欧米市場を含めたシンガポールドル(SGD)の対ドルレートは、小幅高。FRBによる追加緩和への期待に伴うドルの先安感が意識されるなか、リスク選好で買い進んでいたSGDに対して、いったんは利食い売りが出た。ただ、市場では、22、23日のG20に向け、新興国通貨の先高感が意識されており、SGDは値を戻した。SGDの安値は1米ドル11・3106SGDで、10日の1・3126SGD以来、2営業日ぶりの安値。終値は1・3052SGDで前日比0・22%高だった。

★タイバーツの対ドルレートは、反発。ドル買い戻しで30バーツ台に軟化したしたが、29バーツ台に戻した。終値は29・88バーツで前日比0・33%高。

### リングットが約1カ月ぶり安値

★10月12日のアジア時間におけるアジア通貨の対米ドルレートは、軟化。G20に向けた新興国通貨の先高感はあるが、目先は利食い売りに押された。東京時間午後4時台の韓国ウォンは、反落。安値は1米ドル1132・30ウォンで、5日の1137・20ウォン以来、約1週間ぶりの安値。台湾ドルも反落。安値は31・045台湾ドルで、6日の31・072台湾ドル以来、約1週間ぶり安値。フィリピンペソは3日続落。安値は43・770ペソで、6日の43・780ペソ以来、約1週間ぶり安値。マレーシアリングットは反落。安値は3・1165リングットで、9月17日の3・1195リングット以来、約1カ月ぶりの安値。株価が伸び悩んでいることで、資金流入期待が若干、後退している。インドネシアルピアも反落。8920ルピア台で横ばい。

### 人民元は小反落

★10月12日の中国・上海外為市場のドル・人民元相場は、前日比0・04%安の1ドル116・6734円で、小反落した。(U)

### ◆FNWeb、好評受付中!!◆

金融ファクシミリ新聞Webサービス・FNWebでは、インタビュアーや相場見通し、東京・NY・LDの各市場の為替データなどを盛り込んだ資料版を配信中。申し込みは、HP (<http://www.fn-net.co.jp>) よりご連絡ください。

無断コピーおよび転送は固くお断りしております

### 外為市場

## ★介入に現実味★

★東京外為市場のドル・円相場は、円が81円台の高値圏を維持するか。手掛かり材料としては、FRBの追加緩和によるドルの先安感と日銀が打ち出した包括的な緩和政策、本邦当局による円売り介入への警戒感が交錯している。ポジション的にもドル売りが膨らんでいると推測される。短期的にはドルの買い戻しが起きても不思議ではないと見込まれる。ただ、前週末に発表された9月の米雇用統計が市場予想を下回ったものの、さらにドル売りが加速した点では、ドルの先安感の強さを意識させる動きとなった。一方、円高の抑止力としては、本邦当局による円売り介入への警戒感が続く。G7後も断固たる措置を取ると明言している点では、円の史上最高値が現実味を帯びる81円台前半からは介入が行われる可能性が高い。(U)

## ●3M短国は順調に消化へ●

★無担保翌日物は0・08509%前後が中心の取引か。積み最終日が近づいているものの、資金余剰感は強く淡々とした地合いが続く見通し。タム物金利は小動き前日の2カ月短国入札も順調な決着となり、市場の目線は狭い水準に集中している。きょうの3カ月物も0・10%央々では需要が強まる展開が予想される。(E)

### 短期市場

★ユーロ円金利先物相場は、横ばい圏でのみ合いとなるか。金融緩和後の3カ月物タイポレートについて、低下余地に対する懐疑的な見方もされ始めており、一段の上値追いに対する慎重な姿勢が多い。しかし、今後の米金融緩和内容いかなでは、国内でも踏み込んだ追加緩和が実施されると見られ、しばらくは高値ボックスも。(W)

## ◇軟調か◇

★長期国債相場は、軟調な足どりとなるか。前週6日に付けた約7年ぶりの高値(144円31銭)が、再び視野に入ってきていることで、徐々に高値警戒感が台頭してくる見通しだ。中期ゾーンも、低位安定しているものの、一段の上値追いに発展するには時間を要すると見られるなか、徐々に買い手控え姿勢が強まるか。一段の追加緩和政策が注目されているが、リフレ政策の強化による、先行きの円安・株高局面が警戒されているなか、イールドカーブのステイプ化を意識する姿勢は根強く見られている。あすは30年国債の入札が実施されるが、落札利回りの低下が

### 国債市場

<b>きょうの主な材料</b>	
▼3M短国入札▼9月の貸出・資金 吸収動向等▼9月のマネーストック ▼米9月の月次財政収支——など	
<b>予想レンジ</b>	
ユーロ円金先11年6月限 99.710~99.730 勝負表:☆☆☆☆★	
長国10年12月限 143円80銭~144円15銭 勝負表:☆☆★★★	
円(対ドル) 81円70銭~82円50銭 勝負表:★☆☆☆☆	
平均株価 9300円~9600円 勝負表:★★☆☆☆	

(注)勝負表は予想記号に対して、的中が☆、外れが★。過去5日分。



## ECBスタンスがユーロを支え

昨年末にギリシャの財政破綻問題が顕在化した後、今年前半にはイタリアなど南欧主要国の財政難も取りざたされ、ユーロ相場は対ドルで6月に1・18ドル台に、そして対円では8月に105円台に落ち込んだ。しかしながら、ここに至るユーロの足どりは強く、直近(8日現在)ではそれぞれ1・40ドル台/115円台へと上昇、9月以降の上げ幅は10・8%/8・5%に上った。ただ、PIGS財政問題が完全に払しょくされていない状況下で、IMFをも巻き込んだEU安定化メカニズムも暫定的なものに過ぎず、ユーロは大きな不安材料を引きずったままだ。

こうしたなか、「FRB、日銀、ECBの金融政策に対する考え方に温度差が生まれ、このところのユーロ高の要因となっている」との見方が浮上。日銀は4年ぶりのゼロ金利政策に踏み切り、FRBは次回のFOMC(11月2・3日)で一段の金融緩和に踏み切るとの観測が高まっている。一方、7日の定例理事会後のECBトリシエ総裁は、「非標準的手段が性質的に暫定的なものであることを考慮し、適切に調節していく」とし、出口戦略を模索していることを示唆した。こうした中銀の立場の差が為替相場に影響を与えたとしても仕方がない。ただ、ユーロ高でユーロ圏の外需が落ち込む懸念がある。一段とユーロ高が進めば、圏内要人のユーロ高懸念が続出する可能性もある。(S)

見込まれるなか、投資家需要も気掛かりとされる。(W)

### ※円金利スワップは方向感模索※

★円金利スワップは方向感を模索。債券市場はこう着感が生じつつあるが、円高・株安が意識されていることで、固定金利受けがやや先行しやすいとみられる。(E)

## △底堅い動きへ▲

★平均株価は、底堅い動きとなるか。米国では、景気指標内容の悪化から、相当踏み込んだ金融緩和策が打ち出されるとの期待感が強く、過剰流動性によるリスク資産への運用資金流入期待は根強く持たれている。また、今回のG7では、日本の円売り介入に対する強い批判が出なかったことで、引き続き介入に対する期待感も強まっている。10月5日も下値切り上げにつながった25日移動平均線(9426円前後)に到達したことで、テクニカル面からの押し目買い姿勢が強まる、といった期待も持たれている。ただ、金融関連株では、早くも戻り一服商状が見られている点では、やや上値が抑制される場面も。(J)

### 株式市場

## ▲パナソニックは底堅いか▲

★株式市場では、パナソニック(6752)の底堅い展開が継続するか。公募増資による希薄化懸念が後退したことで、足元の堅調な収益動向に市場の注目が集まっている。前日は円高懸念で輸出関連株が軒並み売られたものの、同株は横ばいを保ち、下値の堅さも意識されているようだ。三洋電機(9379)、パナソニック電工(6991)の買収に伴う太陽電池分野などでの相乗効果も期待されており、買い優勢な状況が続くか。(V)

(4) — (4)